



平成 27 年度指定スーパーグローバルハイスクール

東京学芸大学附属国際中等教育学校

TOKYO GAKUGEI UNIVERSITY INTERNATIONAL SECONDARY SCHOOL

研究開発構想名

「多文化共生社会の実現を支える組織力・対話力・実行力の育成」

本校のSGH研究開発の3つの「仮説」

- 仮説Ⅰ 課題研究の主軸の概念化と課題意識の焦点化—「国際教養」の整備と体系的プログラム構築による課題研究の質の高度化
- 仮説Ⅱ 課題研究とその評価に際しての外部機関との連携強化
- 仮説Ⅲ グローバル・コンピテンシーの評価規準・評価方法の策定

課題研究の主軸の概念化と
課題意識の焦点化—
「国際教養」の整備と
体系的プログラム構築による
課題研究の質の高度化

課題研究とその評価に際しての
外部機関との連携強化

グローバル・コンピテンシーの
評価規準・評価方法の策定

SGH 事業を通じて目指す 3 つの「力」

本校が SGH 事業を通じて育成をめざす「組織力」「対話力」「実行力」の三つの力は、いずれも本校が開校以来 9 年間掲げてきた教育目標や育てたい生徒像と重なるものです。本校は前身校の帰国生教育や本校での IB 教育を通して長く培ってきたノウハウを元にして、さらに高度で充実した「グローバル化社会に対応する力」を育成しようとしています。また本校には帰国生や外国籍の生徒が 4 割、日本で学校教育を受けてきた生徒が 6 割在籍しています。彼らは日常的にその区別を意識して生活しているわけではありませぬ。国籍も多様で母語もさまざまですが、それが日常だからこそ、生徒たちは普段から「多文化社会」を体験することができ、そこで必要となる力を身に付けることができると考えています。本校が SGH 事業を通して育成を目指す「組織力」「対話力」「実行力」は具体的には以下のように想定されています。

「組織力」―課題解決のために、人・知識・技術を構成・組織し、物事を動かす力

「対話力」―課題解決のために関わる人・組織等と対話し、合意形成を為す力

「実行力」―課題解決のために実際にアクションを起こし、解決に導く力

これらの力は、本校の基本的な姿勢に関わるものであると同時に、これからのグローバル化社会において、異なる他者と共に生きていくために必ず必要とされる力だと考えています。これらは新しい学習指導要領の基盤となる「育成すべき資質・能力」の三つの柱に結びつくものでもあり、また OECD が掲げるキー・コンピテンシーの三つのカテゴリー（①社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力、②多様な社会グループにおける人間関係形成能力、③自律的に行動する能力）とも関連付けられるものです。

生徒は後期課程 3 年間（あるいは中等教育の 6 年間）を通して、課題研究を中心とした SGH の活動を行うことで、これらの力を身につけ、伸長させていきます。

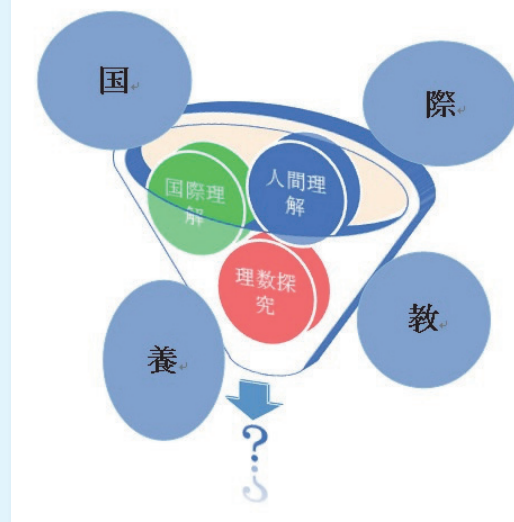


カリキュラム

本校における「国際教養」は「国際社会の中で共生・共存する力を育成する」ために設定された学習領域です。「国際教養」には「情報」（前期課程）や「LE (Learning in English)」（前期課程）、「第 2 外国語」（後期課程）・「GI (Global Issues)」（後期課程）など、教科に委ねられている科目もありますが、「人間理解（道徳）」（前期課程）や「Personal Project」（第 4 学年）など、学年や学校全体で運営する科目（時間）も含まれています。本校ではこれらの科目・時間が相互に結びつき、他の教科目とも関連しながら、生徒一人一人が豊かな教養や学力を身に着けることを目標にしています。

この目標を達成させるために、従来の枠組みを変更して、第 4 学年における「Personal Project」を前期課程における「国際教養」の集大成として位置付けると同時に、前期課程における「国際教養」を、「Personal Project」を完成させるためのスキルを身につける学習の時間として位置付けることとしまし。特に、IB における ATL スキルとの関連を強化し、各教科目とのつながりを強く意識して学習できるような学習内容を取り入れられるようにしました。

また、従来は、講座型の探究活動の形をとっていた「国際 5」（第 5 学年）、個人で現代的な課題を設定し、社会へ向けて提言するための論文を作成する「国際 6」（第 6 学年）を、それぞれ「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」と位置付け、1 月から 12 月までの期間で探究活動ができるようにしまし。そうすることで、「Personal Project」から「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」へと連続性を持たせ、探究活動の継続性を保証することができるとともに、第 1 学年から第 6 学年までの系統的な学習を展開することが可能となります。さらに、「Personal Project」「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」を同時帯で実施することにより、学年の枠を越えた探究活動が可能となり、各自の設定した探究課題について、より多角的で深い内容の考察ができることが期待できます。



国内交流・国内研修

■ 東京外国語大学 Joint Education Program

今年度から協定を締結した東京外国語大学の Joint Education Program を本校生徒計 11 名が受講。
受講講座は「科学としての外国語教育学入門」「1945 年以降の英国とヨーロッパ 問題を抱えた関係史／日仏間における知の双方向性と受容過程」「ダイナミック・アジアⅠ：平和と紛争に関する視点の多元化」「ダイナミック・アジアⅡ：東南アジア政治をどう捉えるか」「ポストコロニアリズムと日本の近代」

■ 関西大学高等部との交流会

SGH 校同士の取り組み状況や情報を交換し、相互の研究を図る。また生徒同士の交流を通して、課題研究への理解の深化を目指すとともに、同じ問題意識を持つ同世代のネットワーク構築を図ることを目的として実施した。

■ Global Discussion 2015

現在のグローバル化に関して、経済学を中心とした社会的な視点からの学びの中で、自分たちが将来のグローバル社会で活躍するためにどのような能力が必要なのか、名古屋大学の留学生と一緒に考えることを目的として実施した。

■ 駒ヶ根訓練所 青年海外協力隊体験入隊研修

発展途上国援助に関連のある課題研究を行う本校生徒に対し、途上国での活動手法を学び国際協力への理解を深めることを目的とし、駒ヶ根訓練所が行う青年海外協力隊派遣前訓練の模擬体験を 2 泊 3 日で行った。



海外交流・海外研修

■ UCL Grand Challenge Seminar

今後世界を担う日英の高校生・大学生が国際社会のリーダーとなる資質を養うことを目的として開催されるプログラムを活用し、UCL が大学として取り組む社会課題についての知識を深め、文化・背景の異なる他者との対話を通して、自己の課題研究の充実を図る機会として参加した。

■ SGH 海外研修フィリピン Field Work

『SGH 海外研修フィリピン FW』は、『ISS チャレンジ』の SGH 部門に応募し、課題研究に取り組んでいる生徒を対象として、生徒の課題研究の深化や検証のための調査を現地で行うとともに、東京学芸大学の協定大学である Philippine Normal University やアジア開発銀行、現地の NGO 団体の支援先を訪問することを通して、フィリピンの現地の人々の生活や考え方を多角的また实际的に捉え、相互の研究交流の機会を得ることで国際的に通用する課題研究の発展を促す機会とした。

課題研究

本校のSGH 課題研究においては、次の3つを研究の大テーマとしています。生徒はこの大テーマに即して、国際社会における現在・将来の問題について、独自に研究課題を設定しています。

■「リスク」

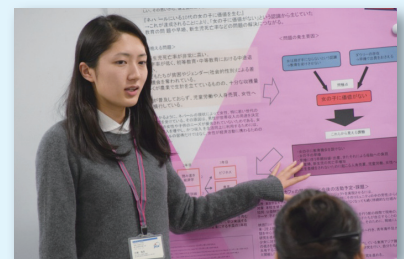
リスクのない社会はありません。これから先に新たに生じるリスクもあります。それらを完全になくすることはできませんが、リスクをいかにとらえ、コントロールし、それらに備えた強靱で柔軟な社会をどのように築いていくかを、課題研究を通して考えます。

■「葛藤と軋轢」

異なる他者と共に生きる世界では必ず葛藤や軋轢が生じます。地球上で起こっている紛争や衝突はそれらが具現化した姿です。しかし葛藤や軋轢を乗り越えた先には新たな可能性が開けるかもしれません。葛藤や軋轢を超えて新たな平和的社会を築く道筋を、課題研究を通して考えます。

■「教育」

世界で起こっている多くの課題の解決方法として共通して挙げられるのは教育です。しかしその教育自体が十分でない国や地域が多くあります。また、既存の教育にも新たな形が必要とされています。教育というテーマを通して、多くの仲間と共に生きられる社会の構築について考えます。



* ISSチャレンジ *

本校では、生徒個人および団体による独自の研究活動（課題研究）の奨励を目的とした、「ISS チャレンジ」を実施しています。この取り組みの中で生徒の研究活動の支援をするとともに、研究の過程および成果を審査し、優秀な研究を表彰しています。また、校外の研究発表会の学校代表選考も一部兼ねています。SGH において課題研究を進めている生徒の多くが ISS チャレンジにエントリーし、課題研究を進めています。

評価

ISS チャレンジ（SGH 部門）研究計画書および研究論文は以下の規準で評価を行いました。各評価規準につきループリックを作成し、複数の教員で査読を行いました。

研究計画書

評価項目	
規準 A	研究の目的
規準 B	先行研究
規準 C	研究方法の妥当性
規準 D	実現可能性
規準 E	研究内容の妥当性

研究論文

評価項目	
規準 A	要旨における論旨の整然性
規準 B	序論における研究についての意義づけの明確さ・適切さ
規準 C	調査方法の妥当性および調査内容の充実度
規準 D	考察の適切さ・分析の妥当性と明確さ
規準 E	結論の妥当性・説得力
規準 F	研究による課題理解の深化
規準 G	論文の体裁・適切な言葉の使用

< 問い合わせ先 >

東京学芸大学附属国際中等教育学校
SGH 委員会
〒178-0063 東京都練馬区東大泉 5-22-1
03-5905-1326 (TEL)
03-5905-0317 (FAX)
email:sgh@iss.oizumi.u-gakugei.ac.jp

本校のSGHの概要や活動についての情報は、本校のホームページやfacebookに掲載しています。

- 本校ホームページ：SGHの活動について
<http://www.iss.oizumi.u-gakugei.ac.jp/education/sgh.html>
- Facebook
www.facebook.com/tguiss.sgh/